

## 【資料2】平成29年度 沖縄県小中学校 ICT活用実践事例記入例（タブレット型端末）

実践者名（ ○○ ○○ ）

市町村名	○○市	学校名	○○小学校	学年	6年
教科	算数	単元・題材名	速さの表し方を考えよう		
【単元（題材）または本時のねらい】					
<ul style="list-style-type: none"> <li>速さの求め方を理解し、生活や学習に活用する能力を伸ばす。ICTを取り入れることにより、言葉では伝わりにくい速さを視覚的に分かりやすく示し、「時間」と「距離」が速さを求める際に必要であることをおさえる。</li> </ul>					
【主に活用したICT機器・教材・コンテンツ（アプリ、ソフト）等とそのねらい】					
<ul style="list-style-type: none"> <li>タブレットPC…児童用タブレットPCと電子黒板が連携しているため、電子ノートに書き込まれた考えと補足をもとに児童がリアルタイムに書き込みながら説明をすることで、電子黒板に集中しながら友だちの意見をより理解することができる。</li> <li>PC教材…自作教材（学習教材オーサリングツール）を活用することで実際のアリの動く速さ、時間、距離を動画で確認することができ、問題に対する興味・関心を高め、問題解決の意欲を促進させる。</li> </ul>					
	主な学習活動		ICT機器・コンテンツ等の活用		
導入 5	<ul style="list-style-type: none"> <li>○本時の流れを知る。</li> <li>○課題をつかむ⇒赤アリと青アリどちらが早くC地点に早く着くでしょう。</li> </ul>				
展開 35	<ul style="list-style-type: none"> <li>○問題を電子黒板で見て自分で考える。</li> <li>○ワークシートに与えられた情報を使って、速さの比べ方を書く。</li> <li>○自分の考えをもとに班で交流する。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>○班の意見としてまとめる。全員がタブレットPC上のノートにみんなが納得した意見を書く。</li> <li>○クラスで交流する。</li> <li>○最終C地点に早く着くのはどちらか確かめる。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>電子黒板、自作教材・ワークシート、タブレットPC、自作教材（児童用タブレットPCに自作教材を配布する）</li> </ul> <p>（班全員が納得できる意見を決めさせておく）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>児童用タブレットPC、ノートソフトウェア（班全員が納得して、説明できるようにする）</li> <li>電子黒板、授業支援ソフトウェア</li> <li>電子黒板、自作教材</li> </ul>		
まとめ 5	<ul style="list-style-type: none"> <li>○今日の授業で分かったことを「算数日記」にまとめる。</li> <li>・分かったこと、分からなかったこと、これからやってみようことなど、書く観点を示す。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>電子黒板・フラッシュ教材（児童が相互に問題を出し合う）</li> </ul>		
【活用効果（①評価の観点と②児童生徒の具体的変容）】					
<ul style="list-style-type: none"> <li>①数学的な考え方</li> <li>②速さとは時間と距離が必要であるということに気付くことができた。タブレットPCを活用し画面上で実測することで、単位量あたりで比べることや、距離の最小公倍数を使って比べることなどの意見が出た。速さの概念をICT機器を使うことや友だちと考えを交流する中で、より詳しく知ることができた。</li> </ul>					
【授業等で使えるICT機器やコンテンツ（アプリ、ソフト）等などの紹介】					



写真1：各自タブレットPCで距離と時間を測定



写真2：児童の意見を電子黒板に提示して全体共有